

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 酒米による農業の活性化

参加者

桐生市酒米生産組合 6名
桐生市長

傍聴者 5名
報道機関 2名

1 開会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議題

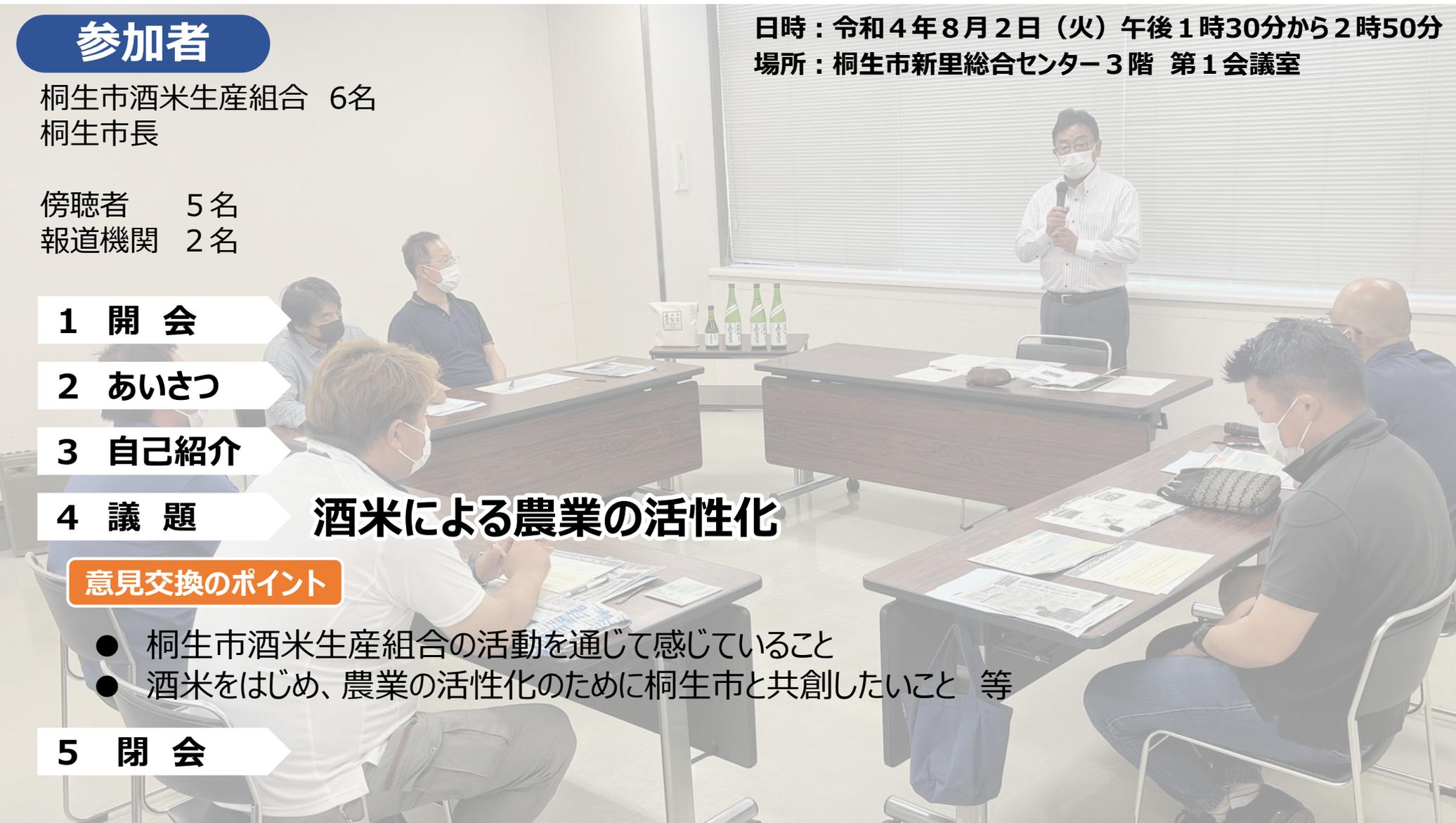
酒米による農業の活性化

意見交換のポイント

- 桐生市酒米生産組合の活動を通じて感じていること
- 酒米をはじめ、農業の活性化のために桐生市と共創したいこと 等

5 閉会

日時：令和4年8月2日（火）午後1時30分から2時50分
場所：桐生市新里総合センター3階 第1会議室





桐生市産五百万石使用ラベル

桐生市酒米生産組合について

酒米の生産を開始したきっかけについては、主食用米の消費の落ち込みに伴い、価格が下落し、水田の請け負いが難しい状況にあった。それと前後して、桐生地区農業指導センターに、みどり市の酒造会社から、地元産の酒米を活用した日本酒を製造するための生産要望があった。

酒米を産需との事前契約で生産、出荷できることは、我々農家にとって重要なポイントであることから、桐生地区農業指導センターの指導を受けながら、平成30年に試験的に酒米の原料となる「五百万石」の作付けを開始し、生産を開始した。

組合のメンバーは新里地区における主力農家で、耕作放棄地を作らないよう、水田を請け負い、一般米、飼料米、酒米を作付けており、かなりの面積を管理している。

酒米の作付け面積について、平成30年は26アールであったが、若手の主力農家が増えたことや、太田市の酒造会社から取引を要望されて令和3年から若水の作付けを開始したこともあり、令和4年には495アールにまで拡大している。

酒米の酒以外の活用について、玄米や酒の製造工程で産出される吟醸粉（搗精する際にでる米粉）等を活用し、味噌や米粉パンが試作されている。

酒米の生産を開始した後、仲間が増えてきたことを嬉しく思っている。地酒の消費拡大と、新たな加工品の創出により、酒米の生産をより安定的なものとしていきたい。

桐生市酒米生産組合について

1. 会員名簿

| 氏名 | 備考（作付開始年） |
|--------|-----------|
| 小池 英俊 | 組合長（H30） |
| 小池 寛明 | （H30） |
| 渋谷 優 | 副組合長（R1） |
| 鴨田 拓磨 | 副組合長（R3） |
| 金子 喜代作 | （R4） |
| 渡辺 昇 | （R4） |

※令和4年度酒米生産者数：5戸



2. 設立日

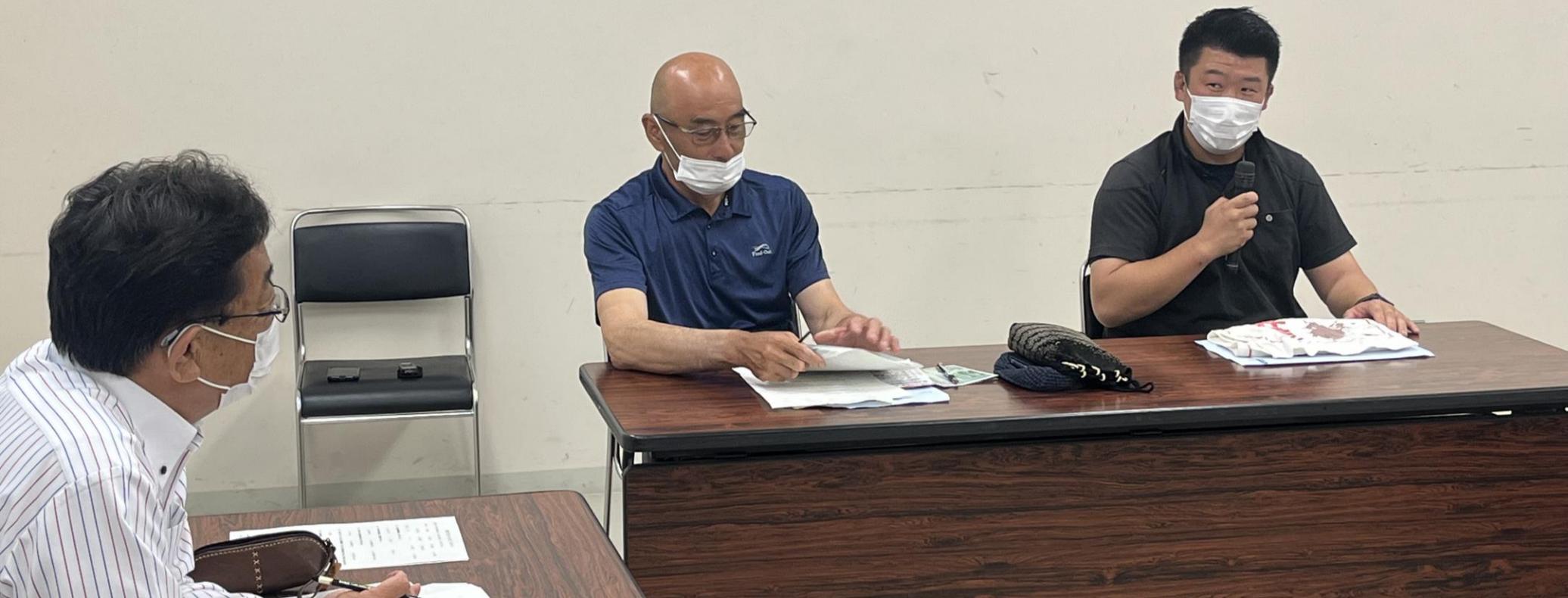
令和3年11月16日

3. 組合の設立目的・設立経緯

近年、水田の管理者の高齢化により、地域の主力となる農家への水田の集積が進んでいたが、主食用米の価格の下落によって、水田の請け負いが難しい状況にあった。それと前後して、桐生地区農業指導センターに、みどり市の酒造会社から、地元産の酒米を活用した地酒を製造するための生産要望があった。

そのため、水田が耕作放棄地となることを防ぐとともに、水田を安定して活用できる仕組みとするため、同センターの主導の下、販売価格が主食用米よりも安定している酒米を産需との事前契約で生産、出荷を行うこととし、その生産体制を整えるために新里の主力農家を中心に組合を設立した。

酒米の生産拡大が地域課題の解決につながる



耕作放棄地を未然に防ぐ

(意見)

現在も水田を請け負い管理しているが、農家が高齢化しているため、10年、20年先は耕作放棄地となり得る土地が増加してしまうのではないかと危惧している。

耕作放棄地が増加すると、景観は悪くなり、災害時に土砂崩れが起きてしまうなど、様々な面での問題が想定される。

そのような背景の下、酒米生産組合を立ち上げたので、桐生市産の「五百万石」を有名にして、酒米の消費を拡大し、作付面積を拡大したい。

そうなれば、組合が発展し、農業全体においても、農地集積が進み、生産性向上を図る機械の導入が行いやすくなると考える。

こうした好循環の創出により、水田や畑を維持し、耕作放棄地となることを未然に防ぐことができれば、農家だけでなく、地域全体、桐生市にとっても良いことになると思う。

桐生市にはこれらの取組を進める中で、我々の組合が力を貸してほしい時に共感・共創してもらえれば嬉しい。

(意見)

補足になるが、中山間地域における農業において、耕作放棄地が点在してしまうと、上流から水を流せなくなることや、自分の農地に薬剤散布を行っても、害虫等を防ぐことができないということもある。

そのため、どうか農業を続けてもらうようお願いしているが、難しい場合は、作付けしにくい土地でも借り受け、管理せざるを得ないといった問題もある。

(市長)

高齢化が進む中で、耕作放棄地を生み出す悪循環を打破するため、皆さんと一緒に桐生市産の「五百万石」を有名にして、まちづくりをしていくんだという一連の流れが、取り組むべき方向性として、非常に分かりやすくなったと思う。

市としても、そのポイントで、どのように連携し、取り組んでいくことが良いのか整理しやすくなったと思う。

桐生市産「五百万石」を使用した地酒のPR



ふるさと納税の返礼品

(意見)

桐生市産「五百万石」については、「純米吟醸五百万石」をはじめ、特別純米酒「花紫」に使用しており、余った酒米は他の酒にも使用している。

作付け面積が増えてきているので、消費が拡大すれば増産はできると考えている。

そのため、地酒が消費されなければ酒米の生産が成り立たないことから、いかにPRし、消費拡大に結び付けるかが重要になると考える。

そこで、桐生市へのふるさと納税の返礼品として使用することで認知度が向上するのではないかと。また、地酒の包みについても、桐生市産の風呂敷や手ぬぐいなどを使えると思う。

(市長)

現在の桐生市のふるさと納税の返礼品に関する募集要項では、桐生市で製造された商品を原則としているが、国では原材料が桐生市であれば良いということである。

酒蔵会社はみどり市であるが、国の規定が緩和されていることも踏まえ、前向きに検討したい。

トップセールスでの活用

(意見)

山口県の地酒「瀬祭(だっさい)」のようにトップセールスで市長が出張の際に持っていくと良いのではないかと。

(市長)

飲食物はこれまで使用したことはなかったが、サロン・ド・Gということで、東京でトップセールスを行う機会もあるのでは、検討したい。

また、群馬県の作成したチラシにもあるが、親しみやすく広めるためのキャッチコピー、キャッチフレーズをつけても面白いかもしれない。

(意見)

女性が飲んでも甘くて飲みやすいという評判を聞いているので、その辺を意識したフレーズも良いかもしれない。

就農者への支援の充実



事業承継・新規就農支援

(意見)

事業承継における後継者支援について、国や桐生市からの支援があるが、若者が事業承継を考える契機につながると思うので、手厚くお願いしたい。

また、新規就農希望者に対しては、土地の工面や設備投資など、様々な問題があると思うので、金銭面のみならず親身になって支援してほしい。

資材の高騰等に対する支援

(意見)

報道でも出ているが、農業資材をはじめ、燃料や肥料の値段が高騰している。

桐生市ではハウス経営者に対する補助はあるが、米の農家は該当にならない。

さらに、米の取引額が令和元年度と比べると、半額程度まで下がっている。その下落状況で、若物が就農に魅力を感じるかどうか変わってくると思う。

そのため、これらの価格高騰に伴う支援を検討してほしい。

近年の気候変動に伴い、必要となる農薬が変わってきている。また、同じ農薬を使用し続けると、効果が小さくなることから、ワンランク上の農薬を使用する必要があるが、金額が高額である。その一方で、補助金の額はこれまでと同様であるため、見直しをお願いしたい。

このほか、設備投資について、老朽化に伴う更新に関する支援は市になく、県から資金を借りたが、作付け面積を増やす要件があったので、別の支援があると良い。

集団防除等に対する支援

(意見)

近隣の農家が農薬散布等をしないと、そこでもち病やカメムシ等が湧いてしまい、自分の農地が被害を受けてしまう。

そのため、農薬等を散布する際の集団防除についての支援を検討してほしい。

また、同様に田植えや稲刈りの機械作業について、近隣農家から頼まれて請け負っている。組合で行う場合は支援があるが、個人では支援が受けられないようなので、検討してほしい。

(市長)

事業承継については、市では農業後継者奨励金を交付しているほか、国では経営継承に伴う支援を実施している。国や群馬県の動向も探りながら検討してまいりたい。

資材等の高騰に対する支援については、国の動向も踏まえ、前向きに検討したい。

集団防除等については、現在の支援内容を確認し、どのような手法が良いか研究する必要があると思う。

米の価格の問題など、農家が抱える課題について直接伺わせていただき、大変ありがたかった。いただいた意見も踏まえ、本市の農業振興のための支援策について、検討していきたい。

桐生市の農業・農産物のPR



若者に向けたPR

(意見)

桐生市イコール農業というイメージがないと思うので、桐生市の農業をもっとPRしていく必要があると思う。
新規就農者の増加が、耕作放棄地を未然に防ぐ好循環につながるので、桐生市の農家へ知ってもらいたい。農家って良いかもしれないと思ってもらいたいことが重要である。
例えば、陸上の桐生祥秀選手と関りがあるので、スポーツ選手を通じて何か連携した取組ができるの良いと考える。

桐生市ふるさと大使によるPR

(意見)

桐生市のふるさと大使に任命されている川島孝シエフが東京都南青山の店舗で桐生市の農産物をPRしたいとのこと。若手農家の有志を募り、地元野菜と桐生市産「五百万石」を使用した地酒を併せて送付し、熱意を伝えたところ、話が進むこととなった。

今後、進捗した際には、桐生市も一緒にこの取組をPRしてほしい。

農産物を活用したイベント

(意見)

新里地区の農産物を桐生市のまちなかでPRしたい。

例えば、「炭水化物なまち桐生実行委員会」の方々と連携して、農産物を使用したイベントができる良いと考えている。

また、農家でイベントを行うことも面白いと考えている。「新里の農業を担う会」という、若手農業者や農業に関わりのある人、みんなで盛り上げようという会がある。農協に出荷している農家は、直接お客さんの声を聞く機会がないので、イベントで直売して、直接声を聞く機会があれば、勉強になると思う。

そうした取組を広げていきたいと考えているので、協力をお願いしたい。

(市長)

桐生市ふるさと大使については、桐生市をPRする大事な役割を担ってもらっており、今後その役割を見直しながら、任命する方を増やし、どんどんPRしていきたいと考えている。今般の取組についても、うまく連携してPRしたい。

新里地区の農産物については、シルクル桐生で常設販売することもできる。また、「炭水化物なまち桐生実行委員会」との連携についても、様々なことができるのではないかと期待される。

市もできることをしていくので、是非ともうまく連携し、取組を発展してほしい。

酒米をはじめ、農業の活性化のために桐生市と共創したいこと 等



地産地消の取組

(意見)

酒米だけでなく、主食米や地元野菜の地産地消を推進したいと考えている。子どもの食育にもつながると思うので、学校給食で活用してほしい。

(市長)

地産地消、食育と言うのは子どもへの教育に関して重要なポイントになると思う。

桐生市では、学校給食で出た食物残渣を液体肥料にして、畑にまいてまたできた野菜を学校給食で使用するという、循環型の地産地消の取組を、少しずつであるが開始したところである。

学校給食では安定供給を目指す必要があるので、特定の農産物から始めて、徐々に拡大していくようなことができれば良いと思うので、よろしくお願ひしたい。

(市長)

私は日本酒が大好きで、ほぼほぼ毎日飲んでる。

そのため、桐生市産の「五百万石」を使用した地酒が作られ、地元ブランドになっていくことは非常に嬉しく、楽しみに思っている。今後のPRについては、本日の意見交換を踏まえ、前向きに検討していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

本日は酒米から始まり、新里地区の農業振興についての話にまで広がり、非常に有意義な意見交換ができたと思う。

支援に関する様々な意見もあったが、研究し、なるべく希望に添えるよう、検討していきたい。

若手の農家が従事し、地域を盛り上げることを考えていることは、新里地区の強みだというふうと思う。皆さんの熱い思いをしっかりと受け止め、今回は新里地区の農業振興における意見交換のスタートということで、今後も意見交換の場を設けさせてもらい、共感・共創の取組を推進していきたいと考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。